

科学者京都会議勉強会
京都、1967. 12. 4-5

※14回 Pugwash 会議報告

小沼通二

Venice において 1965 年 4 月 11-16 日の間、おこなわれた Pugwash 会議では「科学の国際協力と軍縮」というテーマがとりあげられた。

(当時イタリアの Pisa に滞在していたが)

私は 3 月 29 日に湯川先生からお手紙をいただき急に出席することになった。当時は北越が始まった直後であり、[附1. p. A1 に Vietnam 2"]

示したように] Vietnam 戦争が急速にエスカレートしていったため、(それ以前の Pugwash 会議では一度も Vietnam 戦争をとりあげていなかった。Venice 会議のプログラムにも Vietnam は予定されていなかったが。) Vietnam をとり上げなければならぬと考えた。

Venice に出かける直前に豊田さんからのお手紙がとどき、その中で、湯川・朝永・坂田 3 先生が Prof. Rotblat に、Vietnam 戦争についての要望を伝える電報を送られたことを知り、意を強くおこされたことができた。[附2. p. A2]

Veniceには20か国から77人の科学者が集った。
プログラムでは、始めの4日間5つのWorking Groupsの
集まりがあり、5日目が全体会議。そして6日目の午前
にも一度Working Groupsの集まりがあった。会議を終る
ことになった。

Working Groupsは

{ 科学の国際協力について 3つ
{ 軍縮について 2つ { Current Problems of Arms Control
and Disarmament
Problems of General and
Complete Disarmament

に別れ、私は45のグループ
に出席した。議題には、急遽 Vietnam が追加され
ることになり、軍縮についての2つのグループが合同会議
を開いて討議することになった。

11日午前の開会式に続き午後はWorking Groupの
集りが始まった。45グループで主に討論されたのは
Multi Lateral Forceの構想の变りにイギリス政府が提案した
Atlantic Nuclear Forceについてだった。大多数はドイツ
核武装への道を開き、国際緊張を増大させると批判した。

12日午前に4.5グループの合同会議とアナウンスされ
Vietnam をとり上げることになった。そして私はその時から
会期中、完全に Vietnam 問題にかかりきりにされて
しまった。

内容を報告する前に Vietnam 問題討議の
経過をみておこう

- 12日 9.30 - 13.00 4.5ケルゴ合同 約35名
Vietnam 討議 座長 R.E. Peierls
[最後は Vietnam Drafting Committee member を選出]
- 13日 10.00 - 13.00) Vietnam Drafting 11名
14.30 - 18.00) Committee 座長 M. Magat
[最後は Draft 作成の小委を選出]
- 13日 19.00 - 23.00 小委(4名: Arangio-Ruiz, Konuma, Magat, Nemeo)
- 14日 9.00 - 12.10 Vietnam Drafting 座長 Magat
Committee
- 14日 12.10 - 13.00 4.5ケルゴ合同会議 座長 Peierls
Vietnam 討議
- 14日 13.45 - 14.20 Draft 作成 (Konuma, Magat, Supek)
- 15日 11.15 - 13.00) 全体会議で
14.30 - 16.00) Vietnam 討議 座長 Peierls
[Vietnam の声明文に全員合意。Vietnam とおける
Gas の使用については翌日にまわす]
- 16日 10.30 - 12.45 4ケルゴ 座長 Peierls
Gas 討議
[最終決議完成]

12日 + 4.5 グループ合同会議 — Vietnam —

(9.30 - 13.00) 座長 Peurbs 約35名

Bondi (UK) ベトナムが北からの補給を受けなくすれば問題は全部かたずくたす。そこで17°線に沿って Laos からタイ国境まで鉄条網や地雷原で守られた controlled area をつくり国際的に監視せよ。そうすれば米軍の北 Vietnam と Laos の爆撃は不要になり、effective control ができたら2年位で米軍は南 Vietnam から引きあがることができよう。

(USSR) アジアの科学者がどう考えているか聞きたい
小沼 [席上唯一のアジア人。参加者中にはあと2人アジアの科学者がいたが別会場にも席にいた。Menon (インド) と Prawirohardjo (インドネシア)]

日本の科学者はかねてから Vietnam の問題は強い関心をもってきた。現在、日本では科学者を含めて大多数の国民が米軍の北爆に強く反対している。この世論は主義主張や立場の相違を越えたものである。

今日の Vietnam について発言する場合、丁史を忘れてはいけません。Vietnam は18世紀末には国家統一を遂げ、独立を保ってきたが、約100年前からフランスが進出を始めた。

前世紀末までには インドシタ 全体を 植民地にした。第2次
世界大戦中は 日本の支配下にあったが 戦後直ちに
全 Vietnam が 「Vietnam 民主共和国」として 独立宣言
を出した。しかるに フランスは 独立を承認せず、独立
戦争が Genève 協定で 平和が回復するまで 8年
間続いたのであった。

南 Vietnam では それより先、フランスが支持する
「Vietnam 国」(バオダイ政権)がつけられていたので、
Genève には 2つの Vietnam 政府、中国を含む 9か
国が集まり、そこで は インドシタ 3 国の 独立が保証
された。Vietnam については、北緯 17° 線に沿って
臨時停戦ラインがひかれ、2年後に 国家統一の選
挙がおこなわれることが予定された。

アメリカと南 Vietnam 政府は 最終宣言に 調印
せず、統一選挙も拒否したが、この裏には 第1次
Vietnam 戦争の間の 米軍事援助 26億ドルと
南 Vietnam 政府が 親佛政権から、反佛親米政権
に変わったという事実があった。

国民はこの政府を支持せず、遂に 1960年に至って
南 Vietnam 民族解放戦線が 結成されたのである。
その後の経過は ここで述べる必要はないと思う。

いいだったとは。

- (1) 「史的にみて Vietnam は一つの国であった。
- (2) 17°線は臨時の境界線であり、Vietnamの将来は Vietnam 人自らの決定にまかせるべきである」という点である。

最後に現在の事態についての日本の科学者の見解を最もよくあらわしている電報^{*}が、この Pugwash 会議にとどんでいるので読ませてあげたい。

[附2. p. A2].

* 私は Venice で Prof. Rotblat と始めて話した時、電報がとどんでいると見せかけた。この電報をどう取扱うつもりかきいた。彼は、会議の運営が多忙なので私が最も適当と思う方法で会議に提出するようにしたので、上記の形で公開し、後で全員にコピーを配布した。

Millinshchikov (USSR)

日本の科学者の意見に完全に賛成。ソ連を合めて世界中がこの Pugwash が Vietnam 決議を出すことを期待している。

(USSR) 米国は毒ガス使用を禁止した Genève

議定書と civilian population 保護を定める Geneva convention に違反している。

Moch (佛) 米の侵略とソ連は「うか」。その事実があったのか。北 Vietnam は南に物を送っているではないか。

Noel Baker (英) 米軍の gas 使用は遺憾である。一時的な効果があっても、gas 使用の escalation がさらなる脅威から危険である。それに反対の宣伝に使われたではないか。

Magat (佛) フランスで今後も Pugwash 運動を続けたいためにはどうしても Vietnam についての resolution が必要。

Supek (2-ゴ) ユーゴの Pugwash グループは米国の南 Vietnam への軍事干渉と北 Vietnam への侵略行為に憤りを感じている。すべての外国軍隊の南 Vietnam からの撤退と北 Vietnam へのあらゆる侵略行為の停止を Geneva 協定の完全履行を要求する。

Arangio-Ruiz (伊) 侵略という言葉は法的に定義できない。それに私は現状を米国と侵略とは考えない。しかし Vietnam の事態が世界平和と安全を脅かしているから、関係国の交渉と国連が介入し始めるべきだ。

Feld (USA) Pugwash 会議を成功させるためには Vietnam 決議を出さなければよい。★8回 Pugwash 会議 (Stow) はソ連の核実験再開直後だったが、ソ連科学者の立場を考慮して非難決議を出さなければならぬことを思いあはしめてもらった。

gas の使用の非難の声があるが「イェメンでも gas が使用された」とは言いか。

Millionshtchikov (USSR) Feld に反対。Vietnam 決議を出さないと国へ帰れない。

▽ Sutherland (英) [この発言はもと前だったはずだが順序がわからなくしたので == に書いておく]

無条件で直ちに交渉に入れという決議を出そう。

[この提案は Menon, Magat と3人であるがじめうちあわせて、印刷配布されていた。

Peirals (英) Drafting committee をつくりさらに検討してもらう。

[==でメンバーの推薦]

Harrison-Brown (USA) 全体で一致できる決議は作れない。

Sutherland (英) 決議は非公開にしておく。

Peirals Drafting committee にあわせておさうをさせる。

Magat (佛) 決議案は2つ作る どちらかを選んだら
もらうことにしたい。

Drafting Committee のメンバー

Arangio-Ruiz (伊)	Supek (ユゴ)
Bondi (英)	Stein (イスラエル)
Magat (佛)	Menon (インド)
H. Brown (米)	Khvostov (USSR)
Konuma (日)	Pravirohardjo (インドネシア)
Nemec (チェコ)	

順序は忘れたかどにか

Feld (USA) から Johnson 大統領の 4月7日の演説を資料をくばって説明した。

内容は 戦争をやめれば 10億ドルを支出し
北も含めた Vietnam の経済開発を援助し
ようというもの

13日午前 Vietnam Drafting Committee

(10.00 - 13.00) 座長 Magat 11名

Magat (伊) 決議を出すかどうかは 継続委にまかせたら。

Supek (ユゴ) 反対

Prawirohardjo (インドネシア) インドネシア科学者は 北爆即時停止を要求している。われわれは立場の違いにもかかわらず、反植民地、反帝国主義の点で一致している。外国軍隊がアジアから手をひくことを要求する。

Menon (インド) 無条件即時話し合いを要求。

Konuma (日) 今や国家の代表になることはなく、人類の一員という初期の Pugwash 精神にもどることが必要。

H. Brown (米) 私は日本を訪ね、科学者の間には二つの対立する意見があることをきいた。Konumaの発言は一方を代表するものではないか。

Konuma (日) No!! 米軍の行動を支持する科学者の声はない。

Stein (イスラエル) 民族自決を支持。ガスはイエメンでも使われている。Vietnamでのガス使用は foolish commander のやったことだ。

H. Brown (米) 戦争終結には交渉が必要。

独立国には自らが決める権利もあるが、外国に援助を求める権利もある。中国が孤立している現状では米軍撤退が+では安定状態をつくり出すことはできない。われわれの目標は戦争をやめることだから、any statement は米国内で役に立つものであってほしい。

[Konuma の管内に答えて] 1954年の Geneva 協定は reasonable だと認めた。ただし時間かたてているので事態は変わっている。

Arangio-Ruiz (伊) アジアのことはアジアにまかせるといふことは反対。国連の介入を望む。

Bondi (英) 1. US にとって役に立つものでなければならぬ。
2. 英国は friendly country オーストラリアの安全に関心をもっている。
3. China には great fear をもっている。
4. 国を2つに分けることはいけない。+と+が一つの解になりうることもあるから。
5. 交渉には敵対行動の中止が必要だから。ケリウ戦の場合には中止は困難。だから停戦前に交渉を入れ。

Magat (佛) gas 使用については very strong statement をつける。さらに +H-1 弾の使用禁止も要求しようではないか。+H-1 弾も核兵器にあつては civilian

population に対する残虐兵器であり、国際的に使用が禁止されているのは、1925年に「化学兵器禁止条約」が結ばれたことによるのだ。

Vietnamの最終結論は民族自決、中立化が必要

Arangio-Ruiz (伊) BC兵器は別として Vietnam

についての発言は止めよう。

Bondi (英) gasについては一般的非難をうけて、

local commanderに権限を与えては危険だとい

うことを発言しよう。

Magat (韓) 米政府の Genève 協定についての態度は?

H. Brown (USA) 知らない。

Magat (韓) 国連の仲介の可能性は?

Khvostov (USSR) 北 Vietnam が受け入れないだろう

アジア諸国が仲介するところが望ましい

Magat (韓) 仲介の労をとる可能性があるのは

国連かアジア諸国か Genève 会議参加国

から preferably UN or ---- という形で交渉を

求める表現はどうか。

停戦をしてから交渉というのは現実的であるか

と思うかどうだろうか。

13日 Draftのまとめ

(19.00-23.00) Magat, Arangio-Ruiz, Konuma, Nemeč

一番英語の上手な Arangio-Ruiz が一日の討論を彼等にまとめ、それに他の3人が口をばさむという形で案をまとめていった。23時にまとったのは時間ぎれで、その段階の案を翌朝の Drafting Committee に出すことにした。

内容要旨。われわれは満場一致で次のことに同意した

1. 現状は世界の平和と安全をおびやかしている。理性とヒューマンズが国家の威信にうちかたわばるため
- 2a. お互いの関係者が、事態を settle し、それ以上の violence と流血を避けるためにあらゆる手段をつくし、できるだけ速かに交渉に入るよう努力する
- b. 国連は全力をつくす
- c. 国連の行動は交渉の仲介のみならず、加盟国の moral and material participation を得て国連憲章が認められている あらゆる手段をとる
- d. 上記の手段には停戦監視を含むべき
- e. もしも国連が失敗したら、any government or group of governments 籍に、アジアの国や Geneva 協定参加国は上記の努力をせよ

3. 平和が回復されると、南 Vietnam の people は、彼等が望む政府を組織する (適當な国際監視の下で) 機会が与えられるべきだ
4. 東南アジア諸国の経済的・社会的開発のために世界各国がもっと substantial な努力を要することが望ましい

14日 Vietnam Drafting Committee
(9.00 - 12.10) 座長 Magat

Khvostov (USSR) 小委員会の場合は昨日の決定とちがう、
日本からの電報の内容も入っている。インドネシアの意見が
あっている。

外国軍が撤退すると真空になるという意見があるが
people がいるではないか。

gas の使用についても何もない。

全体としてこの文章は Johnson の見解に沿っている。しかし
アメリカの行動を正当化するものだ。

国連が努力せよというが、国連がその資格を失った
は中国がすでに明言している。

最後の 4 はおとすべきだ。

Magat (経) ガスについては別の draft を用意するつもりだ。

Arangio-Ruiz (経) ガスについての声明は Vietnam と完
全に切りはさむべきだ。エジプトやイエメンのガス使用
はわかるが (理性ある米軍によって使われる) Vietnam
のガス使用には全然危険がある。

Prawirohardjo (インドネシア) 2つの声明は深い関係
がある。どちらの一つもおとすはこまる。

(USSR) その通り

Supak (ユゴ) Pugwash 会議は 條約作りの場では
ない。 提出された案は 法律案の文章だ。
アメリカのやつは いると 是 はずきり 示れなければ ない。
ない。

「==」 12時10分 に入った。 午前中、別室で
オ4.5 グループ 合同会議が 開かれて 2
Drafting Committee からの 報告を 提出する
こと になっていた ので、 意見が 一致 しない
「==」 一同、 合同会議の 部屋に 出席。

14日午前 14.5 から70 合同会議 における Viet nam
討議

(12.10-13.00) 座長 Peirce

Magat (英) = これまで 全力をつくしたか Viet nam
resolution の案をまとめる = とはできなかった。

Peirce (英) 反対者の意見は学んか

Arangio-Ruiz (伊) 国連の役割をもうとばつて書く
のでなければ "私は絶対反対"

Khvostov (USSR) 米の侵略が全盤書けない。

各国民は自分のこと自分で決める権利がある。

国連の役割というが オズには当事者の一方側から

拒否されているものをとりあつてはとほできなかった

Peirce (英) 今日中に内容に入つて一致した

見解に達するのはとほできなかった"らう。 次の案はどうか

Peirce 案

(要旨) Pugwash 会議は Viet nam における軍事行動の
強化、特に市民を含む北 Viet nam の targets への攻撃
を deplore する。

この conflict の原因については 反対者は 米国の侵略と

他の者は北からの troops と supplies の南への移動という
Geneve 協定違反と見做す一致はなかった。
原因がどうあるとも 最も大事事は 戦いと流血を
止めることである。 一方の側はすべての関係者が
無条件で交渉のテーブルにつくことを求める。
そして Vietnam 人民が 外部からの干渉を全く受
けずに 自身の将来を決めることができるようにすることを
望む。
停戦と交渉については interested parties 個別に
又は国連を通じて 仲介をおこなう。 各々が受入
れることを希望する。

「以下の案をめぐって議論が終らないうちに、
時内きりで翌日の全体会議に意思が
まとまる見込みと報告する」となった

「この点 Vietnam については何も発言しないうちに会議が終る
ことをおぼしめ Supek Konuma Magat は private に
新しい Draft を作ることにした。しかし途中で Magat
は言いがたし Supek Konuma が新しい案を作った。

これは Peierls の案を修正したものであった。
最終的にはこの案では 国連の名前があと、
Geneve 協定を基礎において解決せよという
文章が入った

これはかてき文のは 14 日の夜おそくたつた

15日 全体会議の Vietnam 討議

(11.15 - 13.00) 座長 Peierls
(14.30 - 16.00)

この日、Peierls はすでに Infeld の意見を基礎
に内容全般をおとすつもりになっていたらしく、
前夜用意した draft は提出する機会がなく、
最終の形は近々案が座長によって提出された。

一字一句の検討が続き、最終的には一致
できなかったのはあとすという形です。

Vietnam 声明は満場一致となったが
すでに内容は全くなく、どちらの側も自
ら都合のよいように説明できるもの
になってしまった。

この討議については E. Rabinowitch はのちに

Bulletin of the Atomic Scientists (1965年9月号) に

Japanese scientists, in particular, had asked for
much stronger language.

と書いているが、実際失望をかくすとはできなかった。

そのあと私自身を含めて数人から gas の問題が

残つたという発言があり 座長は翌最終日の
午前中に #4 Working Group からもし一致した
見解を達すれば" 継続委員会声明に入る
というところばかり 皆の賛成を得た。

「会議終了後 ソビエト代表団は直ちに
記者会見をおこなう

"#14回 Pugwash 会議における Soviet
科学者の statement"

~~と題して~~ Vietnam 問題についての "これまで"

の発言を記録にとどめた

16日午前 北大 4グループ会議 における
「VietnamにおけるGas使用」の討論
(10.30-12.45) 座長 Peierls

「Magatが用意した(?) draft によると
一行一行検討がおこなわれた。

この席には 4グループ以外にも Vietnam
問題で発言した者のほとんどが集った。
特にソ連からは9人が出席。

アメリカ人で一番発言したのは H. Brown.

ドイツの Nemeic は Gas使用について別の案を
提出した。しかしこれはアメリカ側が認める
とすることができなかった。

12時半頃になり私は ~~約~~ 時間ぎれになって
この声明が書かれることを大変心配したが
そのあとまた15分間 ソ連側の攻撃と
H. Brown の防御が続く。最後に満場
一致で Gas についての声明案を採択する
ことになった。

※ 継続委 声明と出席者氏名は別紙参照

附.1 Vietnam のできごとと Pugwash 会議

A1

- 1954年7-21 Geneve 協定調印.
- 1955年2月 米軍事援助顧問内田, 南 Vietnam 派遣
- 1960年12-20 南 Vietnam 民族解放戦線結成.
- 1962年2月 米軍事援助司令部 サイゴンに設立.
- *9. 10回 Pugwash (ケンブリッジ, ロンドン 1962年8-9月)
- *11回 Pugwash (ユゴスラヴィア, 1963年8月)
- 1963年11月 南 Vietnam クーデター, ゴ兄弟殺害. その後
半年ないし1月ごとにクーデター.
- *12回 Pugwash (インド, 64年1~2月)
- 1964年6月 ホルル会議 (*7艦隊のトキン湾出動と
北爆を決定)
- 8月 米*7艦隊 トキン湾で北 Vietnam 魚雷艇と
接触. 北を始めて爆撃
- *13回 Pugwash (フェリスコ スロヴァキア, 64年9月)
- 1965年2-7 米空軍北爆開始 (フレック基地米軍宿舎攻撃)
への報復と発表
- 2-8 *2回北爆 (ビンディン・ドクワン 攻撃への報復)
- 2-11 *3回北爆 (クイコン米軍宿舎攻撃への報復)
- 2-18 米軍独自の南爆開始
- 3-2 *4回北爆. 以後連日
- 3-8 海兵隊 ダンハ上陸
- 3-15 北爆 19°線を越えた.
- 3-22 米軍 ガス弾使用を確認.
- 3-26 北爆 20°線を越えた
- *14回 3-末 サイゴンの米大使館 爆破.
Venice Pugwash (南爆へ)
- 6-18 グアム島のB52攻撃開始. ハイホを北爆
- 7-27 北 Vietnam のミサイル基地を始めて爆撃

附2

A2

湯川朝永・坂田了先生から Prof. Rotblat へ送った電報

PROFESSOR ROTBLAT PUGWASH LONDON
WE URGE THE VENICE PUGWASH CONFERENCE TO
ISSUE A RESOLUTION WHICH DEMANDS THE UNITED
STATES TO WITHDRAW ALL MILITARY MEANS FROM
VIETNAM AND CONDEMNS THE USE OF POISON GAS STOP
WE EXPECT THIS CONFERENCE TO FIND A WAY FOR
A PEACEFUL SETTLEMENT OF THE PRESENT SERIOUS
SITUATION BY NEGOTIATION STOP

YUKAWA TOMONAGA SAKATA